

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>豊かな人間性を培い、主体的、創造的に自己実現をめざす、心身ともにたくましい生徒を育てる。</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>(1)確かな学力の定着と向上を図る。(導入場面の工夫や交流場面の設定) (2)豊かな心と社会に通じるマナーを育てる。(①絆づくり 一人ひとりが存在感と達成感をもてる集団づくり ②居場所づくり 安心して学べる環境「時を守り・場をきれいにし・礼をつくす」) (3)将来に夢を持ち、自ら考え行動し、進路を切り拓く力を育てる。 (4)小学校や地域との連携をより進めていく。</p> <p>職員室の姿が子どもたちの姿に反映される。私たち教職員が主体的・創造的に理想の学校づくりに向け取り組む。</p>
--	---

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国 ○国語・数学の両方に共通して、知識・理解・技能に関する正答率が低く、基礎的な学力が身につけていない生徒が多くみられる。 ○国語においては、相手の話を論理的な構成や展開に注意して聞く項目や相手の反応を踏まえながら相手に分かりやすく伝わるよう工夫して話す項目での正答率が低い。 ○数学においては、関数や図形の領域での正答率が低い。</p> <p>県 ○国語においては、読むことの領域の正答率が全国や県の正答率と比べて多少低い。 ○数学においては、全体的に全国や県と比べて正答率が低く、基礎的な学力が身につけていない生徒も多く見られる。また、図形や資料の活用に関する項目での正答率が特に低い。 ○英語においては、平均正答率は全国値とほぼ同程度で、活用や表現力は全国の平均正答率を上回っている。思考・判断力の領域の正答率が全国正答率よりわずかに低い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○テレビやビデオ、DVDの視聴時間、テレビゲームの使用時間は、県平均・全国平均と比べ非常に多い。</p> <p>○家で計画を立てて、予習や復習を行っている割合は県平均よりかなり高い。 ○平日の家庭での学習時間(2・3時間以上)の割合は、県平均より低い。土、日は、県平均より高い。</p> <p>○授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う生徒は県平均より多い。 ○原稿用紙2〜3枚の感想文や説明文を書くことへの抵抗が少ない。 ○授業の中で話し合う活動を行っていたと思っている生徒の割合は低い。</p> <p>○昼休みや放課後・休日に学校図書室を利用する割合は県・全国平均より非常に高く、読書をする(1日1時間以上)割合も高い。</p> <p>○近所の人に挨拶をしているは、県平均より低い。</p>

<p style="text-align: center;">成果</p> <p>○近年継続して、どの教室にも「本時の目標」「まどめ」の授業プレートを設置し、どの授業でも目標やまどめを示すことを全教職員で共通理解し実践している。その結果、県平均をかなり上回って、生徒は授業の始めに目標やまどめが示されたと思っている。 ○小中で連携して家庭学習時間のめやすを示したり、家庭学習のあり方について校内で研究したりしている。自由に学習プリントを取れる棚(今年度より社会も増設)を設置するなど環境を整えた結果、計画的に家庭学習を行っている生徒は多く、土日の学習時間も増えてきた。</p>	<p style="text-align: center;">課題</p> <p>○どの教室にも授業プレート「考えてみよう」「話し合おう」が設置されているものの使用率が低いため、授業の中で話し合う活動を行っていたと思っている生徒の割合は低い。また、「人のことを大切に聞く」態度や「わかりやすく話す」姿勢の育成が課題である。 ○理解が不十分な箇所の復習をする機会を多く与える必要がある。 ○学びの基礎となる、受け身ではなく主体的に学ぶ力を高めていく必要がある。</p>
--	--

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎的な学力の向上	1月末	全学年(国語)聞く項目、話す項目の正答率(数学)関数、図形の正答率 一学年の実態に応じて、10%以上向上	・授業の中で基礎的な問題の復習を計画的に行う。 ・定期テスト前などに常学習を設定し、問題データベースを活用して、基礎的・基本的な問題に取り組む。 ・基礎問題のクラスマッチ等を導入し、意欲向上を図る。	「学力向上チャレンジタイム」として朝学習・学活等で、基礎的・基本的な問題に取り組んだ(「秋チェック」「チャレンジ」問題等を活用)。正答率が全校各問題で6.0~44.7%上昇した。	A	「チャレンジタイム」で正答率が全校各問題で6.0~44.7%上昇した。学校評価アンケート(生徒)の各教科で「工夫されていて分かりやすい」の肯定的回答が78~89%となり、H29より上昇した。	A	「チャレンジタイム」を継続し、本校生徒が苦手とする単元の問題に継続的に取り組む環境を整える。学年の実態に応じて、今年度の同一問題から5%以上正答率を上昇させる。
「人のことを大切に聞く」態度を育成するとともに、「自己有用感」の向上を図る。	2学期末	全学年「聞く」こと「話す」ことについて「聞く」ことの価値を明示(8月実施) 「自己有用感」の向上について ・全国学力調査の「自分には良いところがある」項目のスコアを5ポイント以上改善	・「人のことを大切に聞く」ことの価値を、全校・学年・学級・教科・部活動など重層的に示し、生徒会活動なども活用して、話の聞ける生徒を育てる。教師と生徒の関わり方を変え、良いところを積極的に見つけ、1日に1回以上誉めたり、悩みをよく聞き、励ましを続けたりする。	「聞く」ことで、授業理解が進み、他者と良好な関係を築ける価値を共有した。また、11月実施生活アンケートで、「自分には良いところがある」が肯定群5.0ポイント上昇、強い否定群3.2ポイント減少。	A	「聞く」ことの意識づけが集会や授業を通して浸透してきた。生活アンケート(11月)で、「自分には良いところがある」が肯定群5.0ポイント上昇、強い否定群3.2ポイント減少。	A	生徒会活動なども生かして「聞く」ことの意識づけを高める。また、学校全体でポジティブフォーカスの指導を続け、「自分には良いところがある」の肯定的回答群80%以上を目指す。また、強い否定群を今年度より減少させる。
根拠に基づいて論理的に分かりやすく説明できる力の育成	年度末	全学年 発達段階に応じて、①根拠に基づく意見形成、②論理的にまとめる、③わかりやすく説明するトレーニングを継続する。	・各教科で根拠に基づいて、自分の意見を論理的にまとめるトレーニングを週1回以上実施。 ・グループ学習を単元に効果的に位置づけ、自分の意見を伝えたり、相手の意見をもとに自分の意見を修正したりする学習活動を週1回以上取り入れる。	授業で意見・考えを論理的にまとめる学習活動を週1回以上(多い教科は3~4回実施)また、話し合い活動を週1回以上取り入れる授業改善を進めた。しかし、教科によって、また、	C	授業改善でグループ学習も積極的に取り入れ、学校評価アンケートの「協力」「授業への集中」に関する項目は、肯定的回答92%(前年88%)、88%(前年79%)と前年度より上昇した。	B	授業改善を続け、グループ活動などを柱として、「論理的に説明する」力を高める。また、「家庭学習充実キャンペーン」を継続し、論理的思考を高め、全国・県学力調査等で思考力を問う問題の改善を目指す。

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未

<p style="text-align: center;">小中連携の取組</p> <p>○安心して学べる環境の整備(『時を守り・場をきれいにし・礼をつくす』) ○「家庭教育のすすめ」を活用した家庭への啓発 ○「人のことを大切に聞く」ことの価値と方法の共有、また、そのための先進校への教育視察の実施</p>	<p style="text-align: center;">保護者・地域へ理解・協力を求めること</p> <p>○テレビやゲームの使用時間の実態を伝え、家庭でのルール作りや見直しのよびかけ。 ○「家庭教育のすすめ」の啓発 ○放課後学習講座などへの地域ボランティアの活用</p>
---	--